

小学校第6学年 社会科

⑨ここがすごい！古墳文化

学習のねらい

- 古墳について調べ、まとめ、発表することで、古代の文化や社会についての理解を深める。
- 地域にある古墳・博物館を見学し、地域の文化について関心を高める。

郷土の資源について

奈良県には数多くの古墳が存在している。児童にとって古墳は身近な文化財（郷土の資源）の一つといえる。古墳の大きさから王や豪族の権力、副葬品から海外との交流、埴輪から当時の風俗といった古墳時代の社会・文化について理解を深めることができる。



学習指導要領上の位置付け

第6学年 縄文のむらから古墳のくにへ

学習の流れ

1. 古墳と古墳が造られた時代について考える。

1 時間

2. 地域にある古墳や博物館を見学し、古墳文化について班別に調べ、レポートにまとめる。

2 時間

3. 発表会「ここがすごい！古墳文化」を実施する。（本時）

1 時間

参考文献・Web ページ

○「楽しく学べるならの文化財」奈良県教育委員会文化財保存課 平成29年

https://static.nara-ebooks.jp/actibook_data/new/201703290719_sekiguide_/HTML5/pc.html#/page/1



展開例（本時4 / 4）

	学習活動	指導上の留意点 （※評価規準）	備考
導入	○古墳について、班別の発表会を行う。	・奈良の事例についても言及するよう事前に児童に伝えておく。	
	古墳や古墳から分かる当時の様子はどのようなものだろう		【資料の主な内容】
展開	1班：「古墳の大きさと形」について発表する。 発表後、質疑応答を行う。	・自作のイラストや表等を盛り込んだ資料を用いて発表させる。	・奈良県の巨大古墳（丸山古墳、渋谷向山古墳等）の紹介と全国古墳との位置付け ・古墳の形のイラスト
	2班：「古墳の中（埋葬施設）」について発表する。 発表後、質疑応答を行う。	（同上）	・竪穴式石室と横穴式石室があること。 ・壁画が描かれた古墳があること。
	3班：「古墳に収められていたもの（副葬品）」について発表する。 発表後、質疑応答を行う。	（同上）	・収められていたものから、どのような人物が葬られていたか推測できること。 ・外国の文化の影響を受けたものがあること。
	4班：「埴輪の種類」について発表する。 発表後、質疑応答を行う。	（同上） ※古墳について調べたことを分かりやすく伝えている。	・筒の形をした円筒埴輪や人や動物等をかたどった形象埴輪があること。 ・埴輪から当時の家や服装、身近にいた動物が分かること。
まとめ	○発表を終えた感想、発表を聞いた感想をまとめる。	・各班の発表について講評し、内容を整理させる。	

発展的な学習の例

総合的な学習の時間において、『古事記』の倭^{やまと}建^{たけ}命^{のみこと}の活躍や『日本書紀』の「埴輪のおこり」等の「神話・伝承」が史実ではないこと踏まえながら探究的な学習を進めることで、古墳時代への興味・関心をさらに高めていくことができる。